

2023 年度 学校法人 三幸学園 大宮こども専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 丸山 政孝

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・チーム担任制を設け、定期的な学年ミーティングや生徒面談の裁量を広げ生徒指導の多様化を図った。
- ・現代の学生に合わせた実習指導を学内で模索し、実習意欲の向上や実習力向上を図った。
- ・保育分野はダウントレンドであるものの、一定の希望層が存在する為、姉妹校通信制高校を中心に連携を強化した。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・教育理念「技能と心の調和」や人材育成像「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」など、入学時のスタートアッププログラムで重点的に話をしており、教育理念の浸透は図れている。但し、継続的に伝える機会はないため、進級生にも改めて教育理念や人材育成像を共有する必要がある。

② 今後の改善方策

- ・新入生の入学前に、保護者説明会を対面で実施する。
- ・進級生を対象に、入学時のスタートアッププログラムの振り返り及び重要コンテンツの再動機付けを実施する。

③ 特記事項

特になし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・コンプライアンスに対する意識の差が職員間でも生じ、若手職員まで浸透しきれていない。
- ・人事制度が複数の仕組みによって存在していたものの、教職員に見えにくく、わかりにくい部分がある。

② 今後の改善方策

- ・学園共通のコンプライアンス研修を年次問わず全職員受講する。
- ・新人事制度の導入により、適正な評価を行う仕組みの整備と処遇反映までのプロセス等を明確にする。

③ 特記事項

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・毎年変化する保育現場ニーズのタイムリー且つ適切な把握。
- ・現在の保育現場且つ、学生に合った実習指導のカリキュラムや評価等の仕組みが必要である。

② 今後の改善方策

- ・園長連絡会を学内で開催し、現場ニーズや求める人材像等の情報を収集する。
- ・学園全体で実習プロジェクトを発足し、実習指導内容の見直しや評価基準等の認識統一を図る。

③ 特記事項

特になし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・実習前勉強会の実施等の取り組みにより、実習前の到達度確認を経て実習へ送り出すことができた。一方で学年、学科によって指導基準等に差異が出てしまっていることで最大限の学修効果は発揮されていない。

・退学に至る可能性のある生徒情報や低減につながる対応成功事例を隔月の担任会議で情報共有したことで対応スキル向上は図れたものの、退学希望に至るまでの対応スキル向上が課題。

② 今後の改善方策

・就職担当、実習担当、学科担当の役割を明確化及び認識統一を行い、適切な学生支援を行う。

・学園全体での実習力向上プロジェクトが稼働しているため、学内でしっかり発信内容を反映する。

・学内での情報共有だけでなくスクールカウンセラー等、第3者視点での意見やスキル向上の研修を実施。

③ 特記事項

特になし

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・教室だけではなく、ほかの場所でゆっくりとした時間を過ごせるような「のんびりスペース」を設置したことで学生の居場所ができた。そういった居場所の確保をきっかけに、学生の悩み等を引き出すことが求められる。

・就職における学内合同説明会を年間3回実施したものの、学生の意欲の差が見られるため、適切なタイミングでの開催と動機付けを行う必要がある。

② 今後の改善方策

・学校生活・就職活動ともに、個別サポートが必要な学生について、早くから個別対応ができる体制を整える。

就職活動に関しては Two teachers システムを、学校生活に関しては学科担当制を、フル活用できるように教員側のサポートの意識を醸成していく。

・外部企業および近隣の保育園園長、職員の方にお越しいただき、授業内で就職等の動機付けを実施。

③ 特記事項

特になし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・外部ボランティア活動の学内教育への導入数は増えているものの、参加する学生に偏りが生じている。
- ・ホームルーム等での学生への直接案内や学習管理システムを使用した案内方法の工夫が求められる。

② 今後の改善方策

- ・ボランティア参加における魅力や参加するメリットを具体的に学生へ伝達し、参加意欲の向上を図る。
- ・コロナ禍も影響し、オンライン等での関わりを行っていた教育連携においては、保育現場側・学生双方のメリットを鑑みて対面での実施に移行する。

③ 特記事項

特になし

(7)学生 of 受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・SNS やメディアの影響で保育業界自体のイメージが良くない現状があるため、まずは保育業界の魅力付けを強化した学生の募集活動が必要。
- ・入学希望者の学生層の変化に合わせた個別対応の環境やスキルアップの機会の増加。

② 今後の改善方策

- ・保育の魅力付けをメインとしてオープンキャンパスの開催をする。（例：姉妹園でのオープンキャンパス実施）
- ・参加する高校生が複数の選択肢の中から選択できるオープンキャンパスの内容を検討する。

③ 特記事項

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・外部のボランティア（プロスポーツチーム託児、商業施設イベント運営）や埼玉県委託事業「リアル体験教室」の開催等、地域貢献の機会は拡大したものの、既存の連携活動に偏りがあるため、新規開拓が必要。
- ・託児利用やイベント参加者が一定であるため、さらに幅を広げた活動の増加と地域への周知が必要。

② 今後の改善方策

- ・姉妹校での事例等を参考に、保育関連企業との連携を強化。
- ・既存の託児利用やイベント参加者による、口コミの拡散やSNS等での取り組み発信を検討。

③ 特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保育グッズの製作や手遊び等、保育技術の習得に重きを置いているが、同時に基本的な生活習慣や社会人として必要とされる人間性等、学生のうちに身につけるべきことをしっかり伝える仕組みづくりが重要である。

保育現場側の要望に耳を傾け、様々な変化に対応できるよう引き続き情報収集をすることで、保育現場が求める人材の育成を目指していく。

また、保育の魅力をより多くの入学希望者・在校生に伝え、多くの保育者を養成できるよう、教育体制を常に見直し、社会から必要とされる学校運営を目指していく。